

一般財団法人 共立国際交流奨学財団

平成 23 年度事業計画書

(平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日)

I. 奨学金支給事業（継続事業 1）

◆アジア諸国から日本に留学し勉学に励む留学生に、勉学に励む為の資金援助と学習環境を提供する奨学金を支給する。

- ① 一般財団法人共立国際交流奨学財団奨学金(月額 10 万円・2 年間)を 2010・2011 年度生 30 名に支給する。
- ② (株)共立メンテナンス奨学基金奨学金(月額 6 万円・1 年間)を 2011 年度生 25 名に支給する。
- ③ 中国福祉医療人材育成基金奨学金(月額 10 万円・1 年間)を 2011 年度生 1 名に支給する。
- ④ ベトナム・ラオス・ミャンマーで現地奨学金(年額 1 万 5 千円)を支給する。
- ⑤ 2012 年度奨学生の募集・選考を行う。
- ⑥ 2012 年度奨学候補生現地選考会(大韓民国・ベトナム)を開催する。
- ⑦ 寄付募集活動を行う。
- ⑧ 同窓生の状況調査を実施する。

II. 国内・外の留学生に対する生活・学習情報提供事業（継続事業 2）

◆日本国内・外の留学生に対して日本の高等教育機関の就学状況、日本で留学生生活を過ごす為の生活状況(日本の習慣、奨学金等)の情報を無償で不特定多数の留学生に提供し、日本留学時に参考にしてもらうことを目的とする。

- ① 財団紹介パンフレット(年 1 回)、アジア文流(年 2 回)を出版する。
- ② 留学生手帳を出版する。
- ③ 奨学生・留学生の就職活動支援を行い、就職情報誌「共立・桜」(年 1 回)を出版する。
- ④ ソウル事務所・上海委託事務所で日本の大学院・大学・短期大学・専門学校・日本語教育機関の情報、奨学金情報、住居情報を無料提供する。

Ⅲ. 国際交流活動への支援（継続事業 3）

◆日本留学の夢を持って、日本語を学習している留学希望の学生達に日本語のイベントに参加してもらって、入賞者は日本に招待し、日本旅行を体験させ、日本理解を促進する。

- ① 「第 14 回(2011 年度)日本体験コンテスト in 大韓民国」を開催する。
- ② 「第 9 回(2011 年度)日本語体験コンテスト in 上海」を開催する。
- ③ 「第 4 回(2011 年度)日本語体験コンテスト in ホーチミン」を開催する。
- ④ 「第 1 回(2011 年度)日本語体験コンテスト in ミャンマー」を開催する。
- ⑤ 「第 1 回(2011 年度)日本語体験コンテスト in ラオス」を開催する。

◆日本留学中の留学生には、日常の留学生活では体験できない日本を、日本の家庭にホームステイすることで体験させ、日本の生活・文化の理解を促進する。

- ① 奨学生を中心とした一般学生参加の研修会(年 7～10 回)を行う。(訪問先の財団と連携し訪問地域をよく知る研修)

◆国際交流活動は相互交流と理解ということから、留学生ばかりではなく日本人学生のアジア理解を促進する。

- ① 「第 12 回(2011 年度)日本人学生の『アジア体験』コンテスト」を開催する。
- ② 国際交流活動の募集・選考を行い、援助金を支給する。

Ⅳ. 日本語教育施設の設置及び運営

◆留学生の日本での就学がスムーズにいくよう、留学生の日本語能力を高める就学支援を行う。

- ① 一般財団法人共立国際交流奨学財団 日新アカデミー日本語学校の運営と受託日本語教育を行う。

Ⅴ. 留学生寮の設置及び運営

◆留学生が日本で就学する為の安価で安全でよりよい住環境を提供する生活支援を行う。

- ① 蔵女子学生会館、つつじヶ丘男子学生会館及び相模大野学生会館を運営し、入寮生の募集と生活相談会を行う。
- ② 「学習奨励寮」を全国 6 地域(札幌、仙台、首都圏、名古屋、大阪、福岡)で運営し、入寮生の募集を行う。
- ③ 学生会館の入寮学生と地域住民との交流会を行う。